

県指定文化財



1. 宝鏡寺薬師堂（建造物）

三間半×四間の木造平屋の建物で、現在の建物は享和 4（1804）年に建替えられたものです。市内に現存する数少ない古い木造建築で、堂内には木造薬師如来立像、日光・月光菩薩立像、十二神将立像をはじめ多数の仏像が安置されています。



2. 木造七社権現立像（彫刻）

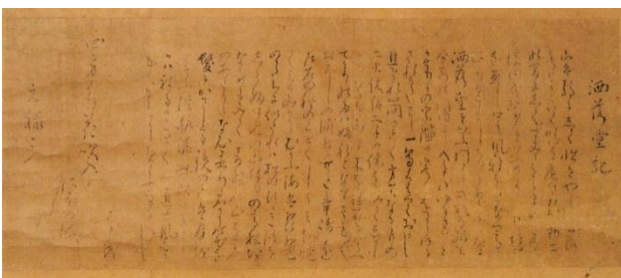
16 世紀頃の造像で、7 体すべてヒノキの一木造りです。保存状態も良く、伊豆権現、箱根権現、日光権現、白山権現、熊野権現、蔵王権現、山王権現の 7 体すべての神像が現存しており、県内でも貴重な資料です。



3. 紙本墨書大般若経（書跡）

臨済宗向嶽寺派寺院の花井寺に保管されており、奥書より安貞 2（1228）年から室町中期（1393～1573）年に写経および補写が行われたと考えられます。

502 巻が現存しており、県内でも屈指の古写経です。



4. 紙本墨書洒落堂記（書跡）

軸物で、松尾芭蕉が元禄 3 年 3 月に弟子の浜田珍夕を訪れた時に書いたものとされています。洒落堂は珍夕の草庵の名で、洒落堂記は初稿本と考えられています。

県指定文化財



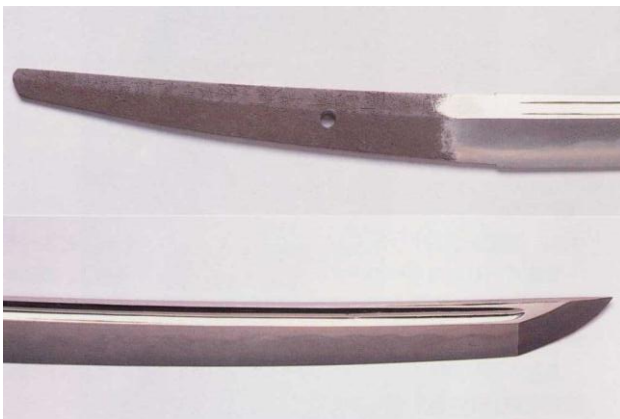
5. 法雲寺弥陀三尊迅来迎板碑 (考古資料)

図柄や技法から、文永から弘安（1264～1278）年間に造立されたものと推定されています。向かって左上から阿弥陀三尊がおりてくる様子を描いたもので、脇侍が腰をやや屈めて立つ迅来迎の図柄が刻まれています。



6. 元近の太刀 (歴史資料)

全長 97.5 cm、刃長 76.0 cm、反り 3.0 cm、身幅は鍔元で 3.2 cm、横手で 2.2 cm、裏表に、
（表）於駒橋元近打之天文十七年六月吉日
（裏）甲州都留郡葛野郷御岳権現為御剣
と刻銘されています。



7. 元近の太刀 (歴史資料)

全長 99.0 cm、刃長 78.0 cm、反り 3.4 cm、身幅は鍔元で 3.5 cm、横手で 2.4 cm、裏表に、
（表）元近作之天文十七年九月吉日
（裏）甲州都留郡小西郷大木大明神為御剣
於駒橋
と刻銘されています。



8. 追分の人形芝居 (無形民俗)

義太夫節を伴奏とした人づかい様式の人形芝居で、18世紀頃に淡路の人形使いによってもたらされ、庶民の文化として受け継がれてきた人形芝居です。



9. 岩殿城跡（史跡）

戦国期に築城された山城で、『甲斐国志』には、「一の堀」、「二の堀」、「本城」、「馬場」、「大門口」、「蔵屋敷」、「亀ガ池」という地名が記載されています。

戦国期、甲斐国東方の防衛施設の拠点として機能したと考えられており、城内に造られた施設の遺構も良く残されています。



10. 笹子峠の矢立のスギ（天然記念物）

笹子峠の頂上よりやや東へ下った沢沿いに樹立しています。樹高約 28m、根回り約 15m、目通幹囲 9m、幹は地上約 22m で折損し、内部は空洞となっています。梢頭の数枝は白骨化しており、幹の空洞内には昭和 4 年の火災にて木炭化しています。しかしながら、樹勢はまだ衰えておらず、県下で有数のスギの巨樹となっています。